

弘前ねぶたの移り変わり

	照明の変遷	用紙の変遷	大きさ・形の変遷
藩政期	木ローソク使用？(漆科の木の実が材料)		発生・角灯籠
明治	和ローソク使用 ローソク2列並び	雨に弱く、破れやすく手すきの奉書紙が一般的であった。	人形→扇(「開き」と「扇」の結合) かつぎが主流、現在の形生まれる。
大正			
昭和初年代			
昭和10		コストは安いのが手すき同様雨などに弱い機械すきの奉書紙を使用。	車で引く形式、扇前後の厚みは薄い 大型ねぶたの折りたたみ式が普及。
昭和20	カーバイト(アセチレンガス)使用	丈夫なキヤラコ布地の時代であり、 彩色に難色があり電球がまともに 写るなど、照明も余り良くなかった。	太鼓もリヤカーにつけるようになった。
昭和30	バッテリー使用(大型)		<ul style="list-style-type: none"> • 本体の鉄骨化。 • 回転装置登場。 • 扇の厚みを増す。 • 昇降装置登場。
昭和40			
昭和50	発電機使用 5kw 7~10kw	<ul style="list-style-type: none"> • ねぶたに最適なナイロン入り 和紙が普及(幅1m長さ60cm)。 • 現在はロンテックスが主流。 	
現在			

新聞の見出しと記事で振り返る60年

弘前観光年表

昭和11年(1936) 公園内大消毒

弘前観桜会

- 秩父宮両殿下お成り人出最高 (5/3 東奥日報)
- 何事ぞ花見の頃の勝チナス、園内大消毒 (5/12 東奥日報)
- 両殿下おしおのびで夜桜を賞される

ねぶたまつり

- 秩父宮両殿下、亀甲橋上特設舞台(テント)でねぶたをご観覧
- 石郷岡文吉市長がご説明、三十数台のねぶた(うち組ねぶた十七台)がヤーヤドの掛声も勇ましく行進 (8/22 弘前新聞)



世相

- 2月1日 十和田湖・八甲田山、国立公園となる
- 2月26日 二二六事件
- 8月1日 ヘルリンオリンピック開催
- 石郷岡文吉弘前市長就任

昭和12年(1937)

パッと夜空を彩る本丸の花火

弘前観桜会

- 観光日本の誇りおらが弘前観桜会は、二十周年の喜びと弘前城の国宝指定の喜びが重なり今日一日から華々しく蓋明けなる (5/1 東奥日報)
- “春雨ぢや濡れて行こう”と、どっと郡部から押し寄せた人波 会期中50万 (5/3 東奥日報)
- 弘前商工会、弘前観桜会二十周年記念勲統委員を表彰 (弘前商工会議所六十年史より)
- 日華事変おこり、軍都弘前緊張。市民ねぶたまつりを自粛中止

ねぶたまつり

世相

- 2月11日 文化勲章制定
- 2月27日 弘前城城門・天守閣等、国宝となる (旧法)
- 7月7日 日華事変勃発

昭和13年(1938)

時局と桜の催し

- 弘前観桜会を「時局と桜の催し」と名称をかえる
- “春雨ぢや濡れてのめ”人出閑散 この年会期中晴天わずか三日、人出落ちる (5/4 東奥日報)

世相

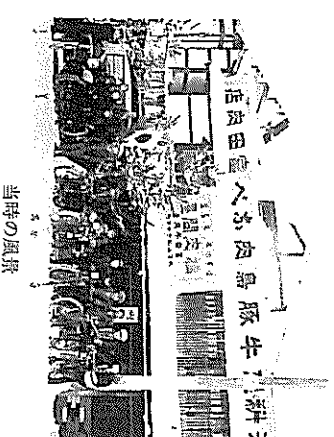
- 2月21日 日本放送協会(NHK)弘前放送局開局、ラジオ放送開始
- 3月30日 石郷岡文吉弘前市長辞任、乳井英夫弘前市長就任
- 4月1日 国家総動員法公付

昭和14年(1939)

第二次世界大戦突入(9月3日)

時局と桜の催し

- 「時局と桜の催し」万衆の桜の下、白衣の勇士覽ぐ
- 国防婦人会、白エゾロン姿の花見 (5/2 東奥日報)
- 戦勝に湧き、晴天に恵まれ弘前城大盛況 (5/9 東奥日報)



当時の風景

世相

- 4月1日 公園内青森県招魂社を護国神社と改称す

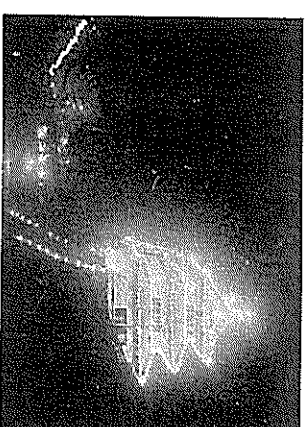
昭和15年(1940)

弘前観光協会、登場

弘前の桜

(5/1~5/10)

- 天守閣のイルミネーションや投影器は自粛 (5/1 東奥日報)
- 毎月1日は興亜奉公日、公園内の飲食店は今日一日は絶対酒を売ってはならぬのきびしいお達し (5/2 東奥日報)
- 花とスワカ泣きべそ<スワとは人造の代用繊維による粗悪な織物> (5/4 東奥日報)
- 日本一の桜も痘禍に萎える 天然痘の流行で寄りつかぬ人出 (5/5 東奥日報)



その他の話題

- 弘前観光協会スタート (3/9 弘前新聞)
会長 乳井英夫市長
副会長 宮川忠助商工会議所会頭、工藤弥市助役
- 弘前観桜会は観光協会が主催することに決定。弘前観光協会評議員会で会期を5月1日から10日間と決めたと観桜会の名称について甲論乙駁の後「弘前の桜」と決定 (3/27 弘前新聞)
- 弘前商工会理事會を開催。観桜会は二十年來主催してきたが、今度市と観光協会が主催することになったため、この際商工会としては潔く手を引くことを決定した (4/12 弘前新聞)

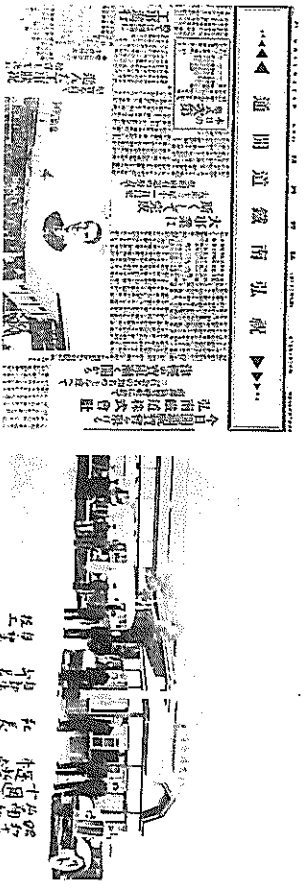
世相

- 9月27日 日独伊三国同盟締結
- 11月2日 国民服令公布

昭和16年(1941)

嬉しい銃後の花見

- 弘前の桜 (4/29～5/8)
- 弘前商工会、花見の会期を4月29日から10日間と決定
 - 時局柄公園内護国神社例大祭、沛然と降雨あり、雨に洗われ桜の紅一段と鮮やか…… (5/1 東奥日報)
 - 公園内護国神社前を神苑とし、カフエー部隊は撤退 (5/4 東奥日報)
 - 自粛の花見も日曜の好天に入出10万 (5/9 東奥日報)



世相

- 3月1日 国民学校令公布
- 4月17日 弘南バス株式会社設立
- 12月8日 太平洋戦争勃発

昭和17年(1942)

戦勝の勢いにどっと花見客

- 弘前の桜 (4/30～5/9)
- 弘前商工会、観桜会を4月30日から10日間と決定 (4/16 東奥日報)
 - 観桜会呼び物の「稚見行列」を中止 (5/4 東奥日報)
 - 弘前観桜会桜満開の蓋明け、売店はわずか四・五軒のみ (5/4 東奥日報)

- 重箱に一瓢の嬌声のないのが今年の花見の特徴 (5/4 東奥日報)

世相

- 2月15日 日本軍シンガポールを占領
- 6月5日 ミッドウェイ海戦
- 7月4日 葛原運次郎弘前市長就任

昭和18年(1943)

楽しみません 勝つまではと観桜会中止命令

- 桜愛護会
- パツと咲き出した古城の桜。花は花ながら兵士や増産にいそむ人々の一刻清遊のための花。花の心も時局と共に又移る (4/9 東奥日報)
 - 戦争を勝抜くまでは行楽旅行はやめようと、奥羽線・五能線・東北本線の一部にわたって乗車券の販売を制限した。弘前駅の5月1日の日曜日の乗降客は2万5千人、昨年の8万人に比し三分の一以下であった (5/4 東奥日報)

世相

- 7月1日 東京都制発足
- 7月21日 本丸為信銅像の応召決定 (昭和19年8月実施)
- 10月1日 青森銀行設立



昭和19年(1944)

太宰治の小説「津軽」刊行(11月15日)

- 桜愛護会
- 古城の桜が彫らんだので、弘前警察署は、5月6日から11日まで公園下乗橋前に臨時派出所を設け園内の警備に遺憾なきを期すことになった (5/2 東奥日報)
 - 県護国神社例大祭前夜祭は437柱の英魂の遺骸を讃えて芳しく桜花爛漫 (5/9 東奥日報)

ねぶたまつり

- 土気昂揚のためのねぶたまつりを許可
- 日支事変以来八年振りです許可された弘前名物ネブタ祭りには文報弘前支部の肝入りで新寺町、茶畑町、富田町、文報弘前支部や品川町などの七組がまず英霊に献納。敵撃滅の喊声を天に轟かした (8/6 東奥日報)
- 勢揃いしたネブタは、白衣の勇士の入院する富田の陸軍病院から堀越分院を慰問して回った (8/7 東奥日報)

世相

6月6日 ノルマンディー上陸作戦開始
7月7日 サイパン玉砕
11月29日 B29東京初空襲

昭和20年(1945)

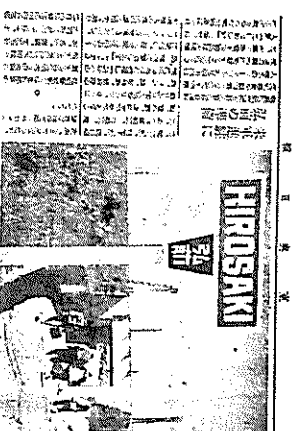
日本敗戦(8月15日)

桜愛護会

・静かなる「花の春」の風景
・弘前城址の桜花は、いま満開の盛観であるが、浮かれ人の姿はなく、英雄を祀る護国神社の神域は万朶の桜が香り (5/9 東奥日報)

世相

7月28日 青森市B29爆撃により壊滅
8月6日 広島に原爆投下される
9月26日 進駐軍弘前へ



昭和21年(1946)

国破れて山河あり、桜無心に咲く

桜愛護会

・弘前商工会、幹事会を開き、戦後初の観桜会について協議
・法外の物価高。夜桜などの照明資材の不足。売店などの店開きの望み薄などの状況を検討 (2/5 弘前タイムス)
・四月二十九日戦没勇士の招魂祭前夜祭、四月三十日護国神社例大祭、境内の桜は万朶の彩り (5/1 東奥日報)

ねぶたまつり

・軍国主義的色彩は駄目のきついお達し
・真夏の夜を彩る津軽の風物詩、ネプタの本場弘前では、無い無いづくしの材料を何とか工夫し製作にとりかかっている。28日までに南東町、和徳町、笹森町などの青年会から弘前署に運行届があったが同署では「軍国主義的なもの殺伐なものなど絶対ないよう望んでいる」 (7/29 東奥日報)

世相

1月20日 岩淵勉弘前市長就任
9月1日 陸奥新報発刊
11月3日 日本国憲法公布

昭和22年(1947)

天皇御巡幸し、ねぶた活気づく

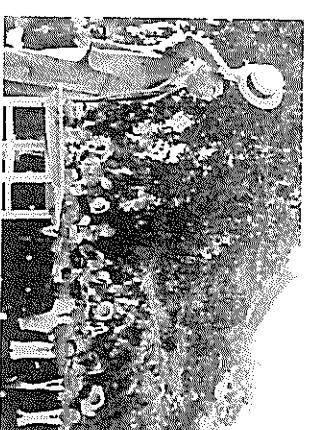
弘前観桜会

(5/1~5/10)

・インフレ調にジンタの音も悲し、人出閑散
・弘前観桜会委員会を開催。弘前市・弘前商工会議所・弘前商工会共催で会期を5月1日から10日間に決定
会長岩淵市長、運営委員長雨森副会頭。なお名称を親しみのある弘前観桜会と復元 (4/15 陸奥新報)
・物売れぬ観桜会。花は満開。人出最高<弘前駅乗降客6万5千人>目立つ喧嘩 (5/8 陸奥新報)

ねぶたまつり

・天皇御巡幸にねぶた燃える
天皇の御巡幸に際し、東北地方の水害で被災者への申し召しから催物取りやめの申し合わせを行っていたが陛下のご宿泊所(弘前市公会堂)に笛・太鼓とヤーマドの勇ましい掛声のねぶたが群集の万歳の声と共に運行された。陛下は窓をいつぱいお開きになり御体を乗り出されて北國の半夜を飾る巨大な灯笼に手を振っておこたえにられた (8/13 東奥日報)



その他の話題

・弘前商工会議所が昭和18年(1943)8月30日戦時下、商工経済法によって解散を命ぜられ、青森県商工経済会弘前支部となっていたが、商工会議所として再発足することになった

世相

4月5日 第一回公選市長選挙 岩淵勉当選
5月20日 第1回国会開会
12月1日 日本勧業銀行宝くじ発売(1枚50円 特等100万円)

昭和23年(1948)

一丈八尺の大金魚ねぶた運行

弘前観桜会

(4/25~5/9)

・弘前商工会は弘前警察署、配電、交通公社、営林署などの代表を招いて観桜会打合会を開いた (4/7 陸奥新報)

• 早い春で花がすすんだので、商工会は緊急役員会を開き、観桜会の会期を前倒しして25日からにきめる。15日間の異例のロングランとなる

- 初日満開 (4/17 陸奥新報)
- 花吹雪 (4/27 陸奥新報)
- 下乗橋修理完了で一安心 (5/2 陸奥新報)
- (5/9 陸奥新報)

ねぶたまつり

• 納涼花火大会
秩父宮殿下の御来弘以来12年も途絶えていた弘前市民納涼花火大会は、弘前市業者団体を中心になり五日午後八時三十分から公園トラックで開催、一発平均二千円。花火が次々と夜空に舞った。人出2万人

(8/7 陸奥新報)

• 一丈八尺の大金魚ねぶた運行

弘前ネブタ祭りは8月5日(旧暦7月1日)からはじまった。合同運行は弘前署前より出発、弘前市茶畑町一丈八尺の「大金魚」など大小とりませ数十組が勢揃いし、数万人の人出で賑わった (8/11 東奥日報)

その他の話題

• 老衰弘前公園(鷹揚園)の全体の樹木の三割は衰弱甚だしく、数年後には半減する心配さえある。園内の国宝文化財も全面的補修を必要とする状態であるし例えば下乗橋の橋脚の腐敗がすすみ、危険な状態であると市当局が発表

(1/27 陸奥新報)

• 弘前公園の維持に協力する鷹揚園保勝会がスタート。観桜会も市と共催になる模様。会長佐藤弥作商工会議所会頭 (2/4 陸奥新報)

世相

- 2月10日 弘前医科大学設置決定
- 7月 弘前公園内に市営野球場完成
- 8月13日 大韓民国成立
- 11月12日 極東国際軍事裁判最終判決

昭和24年(1949)

観桜会の主催をめぐって、三つ巴

弘前観桜会

- つばみじや物足らぬ観桜会の蓋明け (4/25 陸奥新報)
- 寒さに震える、ヤケクソの二日目 (4/26 陸奥新報)
- モンペで花見、雨に洗われた観桜会 (4/29 陸奥新報)
- 景気も花もとんだ、さつぱりの観桜会 (5/9 陸奥新報)
- 花見客総計40万 (5/10 陸奥新報)

ねぶたまつり

- 金詰りで出足が鈍かったが各町内の若い衆が腕にヨリをかけ弘前市と中地区の両警察署に届出たもの39台(組7台)と昨年以上の盛況。最終日の合同運行には50台以上出揃うものとみられる (7/30 東奥日報)

• 今年は旧暦が二回あるので二度目の8月26日(二度目の旧暦7月3日)浜の町の山本教一さんの扇ネブタ三国志(15尺)と平岡町少年組(代表鈴木吉弥さん)の扇ネブタの二組が市警察署へ運行の届出をした (8/27 東奥日報)

その他の話題

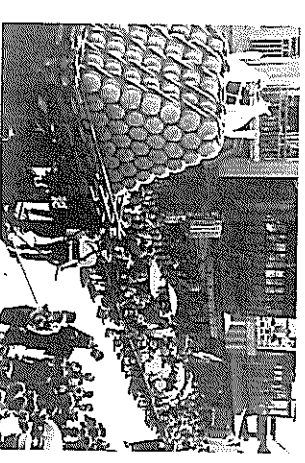
• 商工会・商工会議所・保勝会が三つ巴。観桜会主催紛争
• 商工会議所総会で観桜会を主催することを満場一致で決める (3/10 陸奥新報)

• きまらぬ観桜会主催 商工会と商工会議所の主催争い (3/20 陸奥新報)

• 岩淵市長、鷹揚園保勝会の主催が望ましいと発言 (4/2 陸奥新報)

• 観桜会実行委員会きまる 名譽会長 岩淵弘前市長、会長 佐藤弥作 副会長 雨森良太、武藤米太郎 (4/2 陸奥新報)

• 鷹揚園保勝会、観光弘前「春は桜の弘前へ」の文字を入れたポスター県外へ発送 (4/11 陸奥新報)



• 青森県りんご協会主催のりんご祭は、りんごの町弘前の市制施行60周年の記念の併催行事として盛大に取り行ううことになった。記念式典は外崎喜七翁ゆかりの向陽園を中心に挙行された (9/4 陸奥新報)

世相

- 7月18日 弘前大学開学
- 11月1日 道路交通法改正施行(歩行者右側・車左側通行)
- 11月3日 湯川秀樹 日本人初のノーベル賞受賞

昭和25年(1960)

観光百選、弘前市「都邑の部」で入選

弘前観桜会

- 観桜会運営委員会と商工会、商工会議所対立 (4/28~5/7)
- 弘前観桜会運営委員会組織会 会長 岩淵市長、副会長 神山市議会議長、佐藤商工会議所会頭、委員長 工藤助役 (3/20 陸奥新報)
- 弘前商工会(代表 三崎島久)無料休憩所と演芸場をつくるためこの丸100坪旧鹿置き場一帯の土地使用願を市に提出 (4/5 陸奥新報)
- 弘前市・弘前商工会の土地使用願を却下 (4/18 陸奥新報)
- 花見客の送迎にバス快調
- 花見準備アレコレ弘前バス百人乗りバスを五台購入、公園往復15円(片道10円)乗り合い馬車も同料金提案 (3/27 陸奥新報)
- 弘前市警察署長、暴力団は断固取締ると言明 (4/18 陸奥新報)
- 咲き急ぐ花、初日八分咲 (4/28 陸奥新報)

世相

4月1日 東北女子短期大学並びに弘前学院短期大学開学
 6月25日 朝鮮戦争勃発
 8月9日 警察官予備隊創設

昭和26年(1951)

ネプタコンクールに新しい風

- ・観桜会第一回打合会で市“今年こそゴタゴタをなくそう”と呼びかけ (2/23 陸奥新報)
- ・観桜会臨時事務局を設置 (3/25 陸奥新報)
- ・清酒と濁酒天下分目、関ヶ原の花見 (4/7 陸奥新報)
- ・観桜会出店業者地割りで観光協会に反対 (4/10 陸奥新報)
- ・露天運営委員会が土地使用料を徴収するのは違法と市が警告 (4/13 陸奥新報)

弘前観桜会 (4/27～5/6)

- ・弘前観光協会観桜会の運営を返上＜以後有名無実になる＞ (4/17 陸奥新報)
- ・事務局は市吏員で構成 (4/18 陸奥新報)
- ・公園の地割り漸進的に改革市当局が語る (4/27 陸奥新報)
- ・弘前税務署濁酒の一斉摘発 (4/28 陸奥新報)
- ・弘前観桜会花も漸くほころび好天の蓋明け (5/4 陸奥新報)
- ・満開にどっと15万 (5/4 陸奥新報)
- ・お城に舞う花吹雪観桜会今日閉幕 会期中の入出50万 (5/8 陸奥新報)

ねぶたまつり

- ・所轄警察署ねぶたの運行は午後11時までとすること、占領目的及び公安風俗上支障のないものにするよう注意
- ・弘前青年会議所主催ネプタコンクール(審査と合同運行のスタイルをつくる)を実施。市の助成金さまる (7/29 陸奥新報)
- ・合同運行参加36台 弘前市署届出15台、中地区署21台 (8/6 陸奥新報)
- ・ねぶたの大きさを初めて規制指示、高さ18尺・幅12尺、電線に支障あるものは折りたたみ式とすること

その他の話題

- ・1月15日成人の日を期し弘前青年会議所結成総会開催 (1/16 陸奥新報)
- ・弘前商工会議所税金不払いで差し押さえを受く (1/24 陸奥新報)
- ・1月24日 弘前市・弘前観光百選会委員を市内各団体から委嘱事務局長に工藤浩助役 (2/15 陸奥新報)
- ・旧態依然の弘前商工会議所、役員選出でもめる。会員から批判の声 (2/15 陸奥新報)
- ・弘前商工会議所立直れるか、弘前市補助金を一時凍結(3/28 陸奥新報)
- ・4月27日 桜田清芽市長当選
- ・清藤唯七代議士、会頭を受諾 商工会議所再建のスタート (10/12 陸奥新報)

- ・満開の花に人間に合わずヒッソリ閑の鷹揚園 (4/29 陸奥新報)
- ・スリにご用心、花の公園ですでに数件 (4/30 陸奥新報)
- ・花見気分ようやく浮き立つ(快晴に人出5万)
- ・下乗橋からずらりと並ぶ、募金募金の列＜赤十字募金・緑化運動募金・ユネスコ募金・身障者募金と白衣姿の募金まで＞ (4/30 陸奥新報)
- ・ホクホクのバス (5/5 陸奥新報)
- ・人出50万、迷子177名 (5/8 陸奥新報)

ねぶたまつり

- ・8月16・17日はねぶたの審査。観光協会主催
- ・8月18・19は合同運行 扇ねぶた36台・組ねぶた26台 審査会場は裁判所前
- ・昨夜常盤坂でねぶた見物中の人々がねぶた通過の際切れた引込線に触れて感電死した (8/17 東奥日報)

その他の話題

- ・もめる観光協会(一本化ならず)
- ・岩淵市長観光協会設立を提案 (7/8 陸奥新報)
- ・弘前観光協会設立
 - 会長 岩淵市長、副会長 神山隆文市議会議長
 - 協会員 市当局・市議会・商工会議所関係者で組織
 - 事務局は弘前市におく (7/16 陸奥新報)
- ・観光協会は頭ブツカチで活動不活発と批判相次ぐ
- ・観光協会役員問題で紛糾、観光協会のあり方で市内各界からきびしい批判 (7/29 陸奥新報)
- ・難航続く観光協会早くも内部不調和で解散論出る (9/7 陸奥新報)
- ・「佐藤弥作十六代弘前商工会議所会頭対立解消のため会頭の辞表提出 杉田則敏十七代弘前商工会議所会頭に就任」 (11/24 陸奥新報)
- ・観光協会役員の間からも解散論 (12/15 陸奥新報)
- ・観光協会理事・監事の辞任者続出 (12/22 陸奥新報)

コラム〈観光百選〉

- ・観光百選に弘前をと弘前市議会議会商工振興対策委員会(委員長鳴海武義)が提唱 (9/17 陸奥新報)
- ・観光弘前促進会を結成。市内各団体代表34名が参加。50万票(はがきによる応募)獲得を目標に市民1人1票以上を望む
- 委員長 神山市議会議長、副委員長 雨森良太商工会議所副会長 (9/18 陸奥新報)
- ・観光百選弘前市早くも5万。弘前郵便局員も応援(9/22 陸奥新報)
- ・青森県出身の名士にも応援を呼びかけ (9/23 陸奥新報)
- ・弘前市観光百選、都邑の部で13位入選。
 - 1位 長崎 951,048票、13位 弘前 254,642票
 - 青森県関係では湖沼の部で十和田湖 9位 234,634票 (10/1 毎日新聞)

世相

- 1月3日 NHKが第1回紅白歌合戦放送
- 6月3日 NHKテレビ実験実況中継
- 9月8日 日米安全保障条約(サンフランシスコ講和条約)調印
- ※パチンコ全国的に大流行
- ※「鉄腕アトム」連載開始

昭和27年(1952)

「三つの歌」でひと騒動

弘前観桜会 (4/29～5/8)

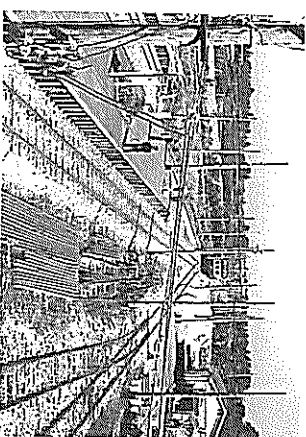
- ・桜田市長、新春記者会見でもめる観桜会に言及
- ・会期4月29日から5月8日まで弘前市主催で開催することを決定 (4/8 陸奥新報)
- ・雨の中観桜会ヒッソリ開幕 サークス休演 (4/30 陸奥新報)
- ・青年会議所公園内優良売店(モデルショップ)を表彰(5/2 陸奥新報)
- ・初日と最終日雨にたたられ花見客55万にとどまる (5/8 陸奥新報)
- ・小さい観光客(修学旅行生)誰も説明してくれぬ観光地? (5/26 陸奥新報) きびしい批判

ねぶたまつり

- ・前夜祭の「三つの歌」でひと騒動
- ・ねぶたまつりの前夜祭の催しとして、7月30日「三つの歌」を開催。当夜商工会議所集会所始まって以来の人の集まりで窓ガラスが壊わされるほどの混雑、おまけにNHKから人気番組の無断公開はけしからんと大目玉 (弘前青年会議所創立40周年記念誌より)
- ・ねぶたまつりの運営面も是正し、23日(審査場所は税務署前)24日(同商工会議所前)の二日間の審査合同運行とし、運行コースは前年の土手町商店街通りを中心とした (前記40周年記念誌より)
- ・青年会議所主催のねぶたまつりも二年目、心配された参加台数も37台とまずまず、入選名称を一等二等から「秀」「優」「佳」「努力賞」にした (前記40周年記念誌より)
- ・今年のねぶたまつりは、雨にたたかれ不景気風に吹かれ予想に反して不振だった (8/25 陸奥新報)

その他の話題

- ・弘南バス市内遊覧のバス運行 市理事者、市議など観光の眼養う (7/16 陸奥新報)
- ・清藤商工会議所会頭たおれる (7/16 陸奥新報)
- ・美空ひばり主演「りんご園の少女」弘前市でロケ (7/17 陸奥新報)
- ・りんご祭豪華に開く りんご協会主催 (7/30 陸奥新報)
- ・後任会頭選任の紛争つづく (8/7 陸奥新報)
- ・十八代弘前商工会議所 会頭 雨森良太、副会頭 大水弥三郎にきまる (8/14 陸奥新報)



弘前電鉄

世相

- 1月26日 弘前電鉄(弘前一犬鰐)開通
- 4月10日 ラジオドラマ「君の名は」放送開始
- 5月1日 血のメーデー事件
- 7月19日 ヘルシンキオリンピックへ戦後初参加
- ※「リノン追分」大ヒット
- ※風船ガム大流行

昭和28年(1953)

高市(たかまち)日本一は桜の弘前

弘前観桜会 (4/29～5/6)

- ・夜桜列車仕立てる 昨年より6往復増発 (4/15 陸奥新報)
- ・高峰三枝子東宝劇場に出演決定 (4/27 陸奥新報)
- ・恨めしや初日は雨 (4/30 陸奥新報)
- ・花も宴げも国際色 (5/3 陸奥新報)
- ・延々続く花見列車、ただ人波にもまれ10万越す人出 (5/4 陸奥新報)
- ・高峰三枝子弘前で恩師と感激の再会 (5/7 陸奥新報)
- ・ざつと落ちた2億円 人出70万と踏む (5/9 陸奥新報)

ねぶたまつり

- ・弘高創立70周年を記念して、弘高ねぶたを出す(30年から恒例化)
- ・弘前駅ホームを「金魚」「扇」のミニプラデ飾る



駅ホームに飾られた金魚ねぶたのプレゼントに車内の観光客は大喜び。



- ・会期8月10日から8月16日(旧暦7月1日から7月7日) (8/11 陸奥新報)
- ・中弘前警察署へ75台 (8/12 陸奥新報)
- ・ねぶた届出97台に達す
- ・津軽の夜を圧する伝統の情緒、往時の全盛期に比す 弘前市42台中部14台うち組ねぶた10台 (8/14 陸奥新報)

世相

- 2月1日 NHKテレビ放送開始
- 3月14日 吉田内閣「ばかやろう解散」
- 9月10日 市町村合併促進法公布
- 10月12日 ラジオ青森(RAB)、放送開始
- ※公衆電話料10円

昭和29年(1954)

新観光協会の設立を内外に宣言

弘前観光協会
(4/28～5/6)

- 古城の桜を世界に紹介 バンアメリカン航空会社撮影班来弘 (4/25 陸奥新報)
- 夜桜見物<低温で酒の売行き最高> (5/1 陸奥新報)
- 雨後の花吹雪 (5/3 陸奥新報)
- またまた雨の御難続く (5/5 陸奥新報)
- 秩父宮妃11年振りでご来弘<カッコー鳴く弘前は第二のふるさと> (5/11 陸奥新報)

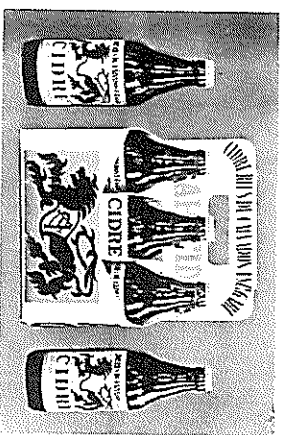
ねぶたまつり

- 出鼻を雨で挫かれたが連合運行で盛り上がり
- 審査合同運行は8月1日と2日、審査場所1日は駅前広場2日が税務署前 (8/2 陸奥新報)
- 身動きできぬ人出 ねぶたまつり三日目 (8/5 陸奥新報)
- 警察署届出88台、審査参加44台<入選16台=扇11台、組5台> (8/5 陸奥新報)

その他の話題

- 観光協会
6月28日市公会堂で有名無実の観光協会の通常総会を開催する形で規約の改正、役員改選を行い、新観光協会の設立を内外に宣言する
議長 古海弘前駅長、名誉会長 桜田市長、会長 吉井 勇、副会長 近藤善蔵 (陸奥新報より)

- 弘前市が観光宣伝するため東北、北海道の交通公社一行を招待、席上観光協会など民間団体のないことを指摘する (4/20 陸奥新報)



朝日ビール弘前創業

世相

- 3月1日 ビキニ水爆実験で第五福竜丸被爆
- 7月1日 自衛隊発足
- 8月3日 津軽承継のミイラ発見
- 9月26日 台風15号で洞爺丸沈没、死者・行方不明1,155人
- 11月3日 「ゴジラ」封切
- ※「お富さん」(春日八郎) ヒット

昭和30年(1965)

はじめての桜姫コンテスト



弘前観光協会

(4/29～5/8)

- 花三分のスタート (4/28 陸奥新報)
- 青年会議所主催桜姫コンテストの披露式公園演舞場で開催 (5/3 陸奥新報)
- 21万人の人出 (5/4 陸奥新報)
- 人々人で雑踏の公園も中休みの雨、桜散りはじめる (5/5 陸奥新報)
- 雨でさっぱり人出1万 (5/7 陸奥新報)
- 葉桜の幕 (5/8 陸奥新報)
- 人出戦後最高の80万人、バスは増加、鉄道は減る。4億円業者の懐へ (5/9 陸奥新報)

ねぶたまつり

- 納涼夏まつり 200発の大花火
- 会場を一大小・二大小・一中で7月23日から31日まで(6/25 陸奥新報)
- 野内花火業者の弘前における、5寸玉から7寸玉の花火競演会をさめる (7/23 陸奥新報)
- 旧暦、最後のねぶたまつり(529年ひと) 会期8月18日(旧暦7月1日)から24日まで 主催青年会議所 (8/1 陸奥新報)
- ネオタタ今日、明日が夜空をこがす合同運行、届出110台を突破
—弘前駅構内をミニねぶたで飾る。金魚と扇の370個 (8/19 陸奥新報)
- 豪雨のため20日の合同運行中止 (8/22 陸奥新報)
- 夜を彩る灯と人 22日の合同運行、13万人の人で賑わう
審査結果、扇一位 上土手町 組一位 東長町(8/24 陸奥新報)
- 再建観光協会役員会開催、昭和30年度の事業計画をきめる (2/11 陸奥新報)
- 観光客誘致のため市と観光協会が函館市に宣伝班を派遣、団長古海弘前駅長ほか12名 (2/23 陸奥新報)
- 観光協会事務局、市から商工会議所へ
- 観光協会通常総会開催
- 吉井勇会長、近藤善蔵副会長辞表提出
代わって会長に雨森良太、副会長に石崎徳助・福士文知を選任 (6/29 陸奥新報)

その他の話題

世相

3月1日 中津整郡11ヶ村 弘前市に合併
4月30日 岩瀬勉市長当選
8月6日 第1回原水爆禁止世界大会 (広島)
※神武景氣はじまる

昭和31年(1956)

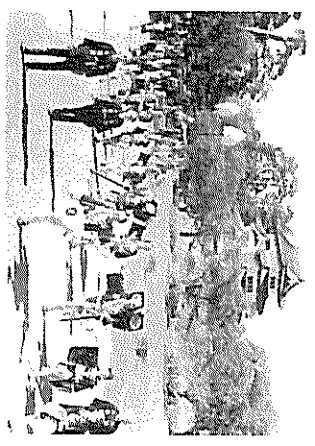
藩祖為信公350年祭

弘前観桜会 (4/27~5/6)

- NHKのテレビ報道車はじめて弘前公園へ入る
- 会期4月27日から5月6日まで、会期中市街地片道運行をきめる
- きょうから観桜会 花は平均五分咲き (4/27 陸奥新報)
- 花はすでに七分、人出閑散 (4/29 陸奥新報)
- 人出15万 低温が幸い花もちよし (4/30 陸奥新報)
- 花のトンネル満開、外濠にロワンスカー40台並ぶ (5/1 陸奥新報)
- 好天で花見本調子、人出15万 (5/2 陸奥新報)
- 古城春雨にけむる 花散り急ぐ (5/3 陸奥新報)
- 観桜会はじまって以来の記録30万—5月3日— (5/5 陸奥新報)
- 勇肌に散る残り桜—總振る消防士— (5/6 陸奥新報)
- 一日千貫のゴミ、人出ザツと80万 (5/7 陸奥新報)

ねぶたまつり

- 津軽為信公没後350年祭のネブタは新暦の8月1日からはじめ
- 夏まつりの店頭照明コンクール/大町のミコシ/花火大会/八幡宮ミコシ渡御/大名行列/物産共催会など
- ねぶたまつり、新暦によるねぶたまつりとした。弘前警察署への届出で120台(S30年が1)



藩祖為信公350年祭記念行事の大名武者行列



- きょうまた12台の届出ネブタ合計145台 (8/4 陸奥新報)
- 夜空をいろいろの絵巻=ネブタ祭は合同運行で最高潮 (8/5 陸奥新報)
- 8月5日、初めて昼の合同運行を実施
- 花火大会に8万人の人出、戦後はじめて駒越、岩木川原で開催 (8/20 陸奥新報)
- 街をいろいろの山車 (東町/鍛冶町/茂森町/浜の町/上土手町) の六カ所に飾る (8/20 陸奥新報)

その他の話題

- 八幡宮ミコシ渡御と大名行列は、藤森市長が藩主のカゴに乗り、50名の騎馬武者を従い、元氣な奴の群/カミシモの大名行列/稚児行列/最後尾が八幡宮のミコシの総勢、600名が見物が入垣をつくる中を堂々と行進した 行列は今日21日も行われる (8/21 陸奥新報)
- 1月14日 岩瀬勉市長死去
- 2月18日 藤森睿市長当選
- 10月25日 弘前城史跡指定
- 重要文化財北門 (亀甲門)、朱申櫓修理着手 (11/15 弘前市教育史より)
- 12月20日 ラジオ青森弘前支局開局

世相

5月1日 水俣病発見
10月18日 日ソ共同宣言調印
12月18日 日本国連加盟

昭和32年(1957)

「ねぶたまつり」が弘前観光協会の主催となる

弘前観桜会 (4/27~5/6)

- 花もますます雨は子どもの日、一日だけ
- 弘前公園が暗いので、常設の高圧水銀灯16基を設置 (4/21 陸奥新報)
- 観桜会前景気上々、会期中のバスの予約早くも224台。八戸からは臨時列車で2,800名 (4/21 陸奥新報)
- ミスチェリー (桜姫) に22名が応募 (4/22 陸奥新報)
- 花はまだまだ団体客続々 (4/28 陸奥新報)
- 花見の初めにミスチェリーの披露式 (4/28 陸奥新報)
- 花ようやく三分咲き、家族連れなど5万 (4/29 陸奥新報)
- 花は満開、酒は満杯の売れ行き=冷え込み続く= (5/2 陸奥新報)
- 花見の人出75万—国鉄は二倍の収益—弘前電鉄は28万人を輸送 (5/7 陸奥新報)

ねぶたまつり

- ネブタまつり128台の届出<扇103台、組25台> (8/2 陸奥新報)
- 見物の人波で埋る きょう弘前ネブタ合同運行 (8/4 陸奥新報)
- 駅前広場で審査/扇ねぶた一位大町、組一位松森町/入選10台、奨励賞5台、努力賞6台 (8/4 陸奥新報)
- ネブタ祭り高潮、今年は新たに昼のパレードを呼びかけ、これに20台が参加運行した。仮装行列は参加なく中止 (8/5 陸奥新報)

その他の話題

- 重要文化財弘前城東内門、南内門、丑寅櫓、天守閣を修理計画に基づき着手決定 (10/1 弘前市教育史より)

世相

1月29日 南極観測隊 昭和基地設営
 9月1日 南津軽郡石川町を合併
 10月1日 国連安全保障理事会非常任理事国に当選 (任期2年)
 10月4日 ソ連世界初人工衛星打上成功
 ※「有楽町で逢いましょう」(フランク永井) ヒット
 ※なべ底不況
 ※百円硬貨登場

昭和33年(1958)

「弘前ねぶたまつり」の名称となる

弘前観桜会
(4/26～5/6)

- 花見観光客アメリカ・カリフォルニア大学から7名 (4/17 陸奥新報)
- 花は2, 3分、人出2万、ますますのすべり出し (4/27 陸奥新報)
- 雨にたたられ園内ヒツツリ (4/28 陸奥新報)
- 街のダニいっせいで摘発、花は寒さでストップ (4/29 陸奥新報)
- 好天盛況、花も見頃 (4/30 陸奥新報)
- 角巻姿も現わる、冷たい雨にブルブル (5/3 陸奥新報)
- 好天で人出20万、園内は人、人、人の波 (5/4 陸奥新報)
- 連休でドット人出10万 (5/5 陸奥新報)
- 寒さが響き人出のびざ90万 (5/7 陸奥新報)

ねぶたまつり

- 青森市制60周年を機に、それまでの「港まつり」の名称を「青森ねぶたまつり」と改称。これにあわせて弘前は「弘前ねぶたまつり」とする
- 夏まつりは初日雨、30日の花火大会で蓋明け。市内高校ブラスバンド市中行進の後、一大小で演奏会 (8/1 陸奥新報)
- 28日から連続した雨で各地に被害 (8/1 陸奥新報)
- 50台の子どもネブタに2,000の金魚ネブタも行進 (8/4 陸奥新報)
- 入選のネブタ20台昼市中をねり歩く 市役所をスタート (8/6 陸奥新報)



- 日本民芸協会の全国大会で来弘した浜田庄司会長 (陶芸家人間文化財) 榎方志功 (版画家) 氏ら弘前市と弘前ネブタを絶賛 (8/8 陸奥新報)

その他の話題

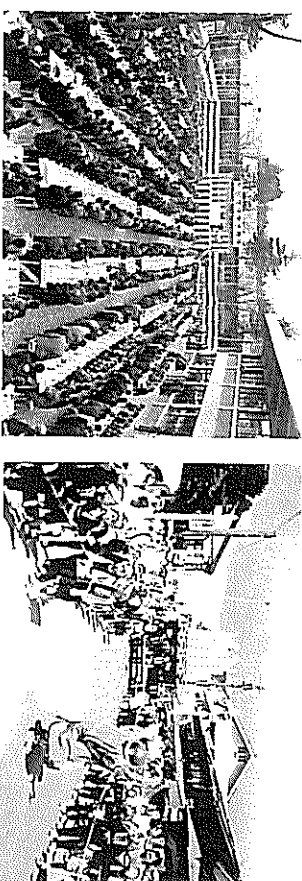
- 弘前駅前に観光案内所オープン (4/1 陸奥新報)
- 集中豪雨で岩木川大氾濫、弘前市未曾有の大被害 (8/12 陸奥新報)
- 台風21号で土淵川再度の大被害 (9/18 陸奥新報)

世相

4月1日 売春防止法施行 「赤練の灯」消える
 12月23日 東京タワー完成
 ※一万円札発行
 ※フラーゾープ上陸・大流行
 ※ロカビリー旋風吹き荒れる

昭和34年(1959)

市制施行70周年で、ねぶたまつり大盛況



弘前観桜会
(4/26～5/5)

- 高温で開花。突風で花は叩き落とされ最悪の観桜会 (4/13 陸奥新報)
- 陽春の鷹揚城ソメイヨシノ咲く (4/20 陸奥新報)
- ひと足お先に観桜会、花二分咲きに日曜日にぎわう (4/22 陸奥新報)
- 桜ほしんど満開に関係者大あわて (4/23 陸奥新報)
- 三日連続22°～28° 7月中旬の暖かさ (4/24 陸奥新報)
- 雨と突風で園内は花の絨毯 (4/27 陸奥新報)
- 好天休日で8万の人出、残の花を惜しむ観桜会初日 (4/28 陸奥新報)
- 岩木町桜林は今が見頃 相次ぐ取消しに渋い顔の旅館業 (4/29 陸奥新報)
- 団体客で活気戻る (4/29 陸奥新報)
- 行楽日和で人の波人出15万、迷子65人 (4/30 陸奥新報)
- “美しい岩木山” 秩父宮・三笠宮両妃殿下弘前公園へお成り (5/1 陸奥新報)
- 花より行楽気分 (5/2 陸奥新報)
- 15万人が初々しい葉桜をたのしむ (5/4 陸奥新報)

ねぶたまつり

- ネブタまつり、きょう開幕。市制70周年を記念して、はじめて行われた前夜祭に、紺地に市章の記を白抜きした浴衣に白樺の総勢300名の市役所ねぶたが見物人で賑わう沿道を圧する勢で行進。盛んな拍手で幸先のいいスタートを切った (8/1 陸奥新報)
- 初日の一日は雨で中止ー弘前署への届出は85台 (8/2 陸奥新報)
- 審査会場の弘前駅前広場から市街地の目抜き通りは7万の人出で埋まり、代官町から51台のねぶたが一斉にヤードと行進を開始した。扇ネブタ金賞4台、銀賞4台、銅賞9台、奨励賞5台、組ネブタ金賞0台、銀賞1台、奨励賞2台をきめた (8/5 陸奥新報)